

学校評価の公表について (手段・時期等)	・3月中にホームページにアップして、学校評価を公表する。
-------------------------	------------------------------

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学 校 経 営	<p>① 職員個々のモチベーションに差があるということはないかとの指摘を受けた。</p> <p>② 保護者アンケートの回収率(67.2%)のよさは、親子関係の良好さとともに、保護者が学校に関心を持っていることを示しており、学校が改善に向かっていることが分かるとの意見があった。</p> <p>③ これから学校に若い先生が増えることについて、保護者対応に苦勞するのではないかと心配する声があった。</p> <p>④ 本年度、学校を地域に開く取組みにおいて成果があった。地域のイベントへの生徒の参加が実現したり、高齢者施設に生徒の美術作品が展示されたりするなど、積極的な働きかけがあったとの評価があった。</p> <p>⑤ 地域防災について、合同防災訓練の実施、船橋市の備蓄倉庫の周知、地域の危険(ガスタンク)に関する情報共有、災害時の避難所運営等々について、自治会などと一緒に考え、連携する仕組みの必要性が訴えられた。</p>	<p>① 分掌業務及び委員会の統合・新設や業務分担の見直し(切り直し)が必要な時期にある。 教務部への業務集中、一部形骸化が懸念される委員会がある一方、学習指導委員会、行事検討委員会等必要な委員会がないなどの組織上の課題があることが分かった。 職員の業務分担を考え、組織として学校運営にあたらなければならない。</p> <p>② 「保護者は生徒(子ども)の目を通して学校を見ている」との指摘があった。「すべては子どもたちのために」という視点からの学校運営に努めなければならない。</p> <p>③ 学校内外の研修機会を充実させるとともに、各種研修に参加しやすい職場づくり(相互理解の風土及び研修に対する積極性の涵養)に努めなければならない。 不祥事根絶やコンプライアンス醸成だけでなく、授業力・教師力の向上を図る研修にすべての教職員が積極的に取り組む必要があり、特にこれからを支える若手・中堅教員の資質向上を実現する学校経営に努めなければならない。</p> <p>④ 「開かれた学校づくり委員会」で、近隣自治会の役員から「10年程前に船橋法典高校は税金の無駄遣いだと発言したことがある。その後の学校の改善ぶりには驚くとともに教職員の努力に敬意を表する」という内容の発言があった。 学校周辺に居住する皆さんにとって、学校と生徒の質は日々の生活環境と密接に関係するとともに、逃げ出すことの出来ない問題であることを肝に銘じ、地域とともに歩む学校づくりをしなければならない。</p> <p>⑤ 小中学校と違い、広範囲の地域から生徒が集まる高等学校において、生徒に“地元意識”を持たせることは難しいが、防災に関しては共通の課題として取り組まなければならない部分が多くある。 県立学校として負うことの出来る範囲において連携協力したい。</p>

<p>⑥ ホームページ等による情報発信がやや不足していた。</p> <p>⑦ 災害時等の情報発信方法が改善されたことが評価された。</p> <p>⑧ モラルアップ委員会に連動する若手モラルアップ委員会の活動について、若手育成の観点から評価された。</p> <p>⑨ 学校説明会について、高校進学にあたって様々な問題に直面する中学生やその保護者に向けて引き続き、有意義な説明会にするよう要望された。</p> <p>⑩ 広報活動に関する学校案内、「一校1キラッ!」マップ、中学校訪問等について、分かりやすく、好印象を与えるものとして高く評価された。</p> <p>⑪ 本校を紹介する映像資料（ビデオ）及び画像資料（パワーポイント）について、中学校での説明会の他、開かれた学校づくり委員会・ミニ集会においても用いて大変好評であった。</p> <p>⑫ 生徒一人一人を大切にした指導等、学年室を中心とした体制が十分機能しているとの評価を得た。</p> <p>⑬ 各学年、生徒指導部による生徒指導は、概ね成果が現れている。</p> <p>⑭ 平成28年度以降を見据えた将来計画検討委員会への期待が寄せられた。</p> <p>⑮ P T A活動が活性化してきたと評価された。</p>	<p>⑥ ホームページの更新について、組織はありながら、作成ソフトが不整備のため、十分な情報発信が出来ない面もあった。 簡単に操作できる作成ソフトを購入して生徒、保護者、中学生、近隣など多方面に向けた情報発信に努めなければならない。</p> <p>⑦ メールの一斉配信システムは、年度途中の導入だったため、登録者数が少ない。災害時に限らず、普段から学校情報を提供するなどしながら、登録者数を増やさなければならない。</p> <p>⑧ 個人的な活動も継続させながら、若手全員が協働する取組みをさせる。</p> <p>⑨ 本校への中学生の関心は高い。中学生にとって、「とりあえず行ってみる」学校から「志望校として考える」学校になっていることが感じられる。期待に添えるよう学校運営の質のさらなる向上に努め、期待に応えなければならない。</p> <p>⑩ 学校案内の内容・デザインについては来年度も分かりやすく、明るい印象のものにするとともに、さらに印刷部数を増やして広報活動の中心としたい。 松戸地区からの受検者が増加した。部活動だけでなく、学習指導、進学指導を期待される学校への改革を目指す。</p> <p>⑪ これら資料について、広報委員会などを活用して組織的に制作するシステムを構築する。</p> <p>⑫ インクルーシブ教育システムを念頭に置きながら、本校での特別支援教育的取組をさらに充実させたい。 インクルーシブ教育システムに関する職員研修を充実させることが課題である。</p> <p>⑬ 生徒の自己有用感を高めることに力点をおいた生徒指導「積極的生徒指導」を推進する。</p> <p>⑭ 「クラス多展開の継続」「新たな安心・安全」「学習指導委員会の設置」「モジュール授業の導入」「放課後の自己実現」を5本柱とする将来計画によって、平成28年度以降のさらなる発展を目指す。</p> <p>⑮ 各委員会とも、現行の活動を再検討し、より積極的に活動し、多くの会員が参加できるP T Aを実現する。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>学 習 活 動</p>	<p>① 生徒と先生の関係が重要である。生徒が学習に取り組む姿勢をしっかりと持てるような関係を維持するには、アンケートでは少数かもしれないが、否定的な回答も無視せず、理由を考えるべきである。</p> <p>② 「授業内容が理解できる」に関して、生徒74.1%・職員50.9%、「分かりやすくするための工夫している」に関して、生徒71.8%・職員90.9%と認識が同期していない点を重要視することが重要である。</p> <p>③ 朝自習が生徒の学習の契機となり、一定の成果を挙げているようだ。</p> <p>④ 職員間の授業参観や外部への授業公開は今後も活発に行い、授業改善に努めてほしい。</p> <p>⑤ 補習指導等によって学習意欲を持つ生徒が進路希望を実現している点が評価された。</p> <p>⑥ 道徳教育は重要な課題なので、中学校の先生が多いことを活かしてしっかりと取り組んでほしい。</p> <p>⑦ 人権教育をますます推進してほしい。</p>	<p>① 「保護者は生徒（子ども）の目を通して学校を見ている」との指摘があった。「すべては子どもたちのために」という視点からの学校運営に努めなければならない。</p> <p>② 次期学習指導要領が諮問されたこともあり、職員の授業力向上につながる研修機会の設定や職員自身の更なる努力・工夫を求めていきたい。</p> <p>③ 朝自習の時間のモジュール化を含めた抜本的な学習指導の在り方に関する検討、改革が必要なものと認識する。</p> <p>④ 職員間の授業公開週間は、多忙な時期を回避するよう時期の検討が必要である。 保護者授業参観週間中に授業参観に来校した保護者が増えていることもあり、来年度も継続して行っていく。</p> <p>⑤ 生徒・保護者の本校への期待を的確に把握し、それに答えるシステムを構築するため、平成27年度には「学習指導委員会（仮称）」を立ち上げて検討する。</p> <p>⑥ 本校生徒の自己啓発の向上を目指した授業展開を一層推進するとともに、日本の伝統を理解し、日本を愛する心を育てる教育にも取り組んでいくべきだとの指摘があった。</p> <p>⑦ 人権を生徒に分かりやすく丁寧に学習させる企画を実施していきたい。</p>
<p>生 徒 指 導</p>	<p>① 「ルールを守って生活している」と思っている生徒が多い。学校が、子どもが頑張れる場所、来たい場所になっているのだと思われる。</p> <p>② 「生徒指導はためになっている」との回答が、上級生になるほど高率になっている。学校での生活時間が長くなるにつれてルールや指導の意味を理解し、社会性を身に付けている点が評価できる。</p> <p>③ 「ルールを守って生活している」について、生徒90%に対して、職員83%とギャップが見られる。理由について検討すべきである。</p> <p>④ 教育相談委員会での様々な課題を抱える生徒への対応について情報交換をしたり、対応の検討をしたりしているのは良い。</p> <p>⑤ 遅刻・欠席生徒数がかなり減少していることが分かり、教職員の早期対応などが奏功していることが分かる。</p>	<p>① 「保護者は生徒（子ども）の目を通して学校を見ている」との指摘があった。「すべては子どもたちのために」という視点からの学校運営に努めなければならない。</p> <p>② 担任、学年の個別対応に対して、教育相談委員会が組織として支援する体制の整備を行うとともに、情報の適正な共有化について検討し、本委員会の機能を十分に活用する体制を構築したい。</p> <p>③ 遅刻常習者や指導を要する生徒の固定化に対応する方策を検討・実施したい。</p> <p>④ 委員会で収集した情報等の管理について個人情報保護の観点と指導の観点との双方から検討したい。</p> <p>⑤ 小さなことを見逃さない指導のため、問題行動カードの発行数はある程度仕方がないこと、継続してカード発行による指導などをきめ細かく実施していく。</p>

	<p>⑥ 地域からの意見 1) 通学時の自転車の乗り方に関して 2) 法典の生徒の活躍ぶりを地元さらに広報すべきである 3) 地元の催事に生徒を参加させてほしい</p> <p>⑦ 通学途上の自転車事故が多く発生した。</p>	<p>⑥ 自転車のマナーについての意見は、登下校時間帯に集中するため、根気よく指導を継続していく。特に新入生が慣れない自転車を運転する4月に重点的に指導したい。</p> <p>⑦ 重大事故に至らないケースがほとんどであるため、見過ごされ勝ちにならないよう、生徒指導部を中心に、学校全体の取組として継続していく必要がある。</p>
<p>キャリア教育</p>	<p>① 生徒の発達段階に応じた指導の結果、進学、就職とも相当の成果を挙げている。</p> <p>② 「進路の手引き」「進路ニュース」発行・保護者向け進路講演会など、生徒及び保護者に対して積極的に進路情報の提供ができています。 昨年度までは職員と保護者の意識にかなりの較差が見られていた点が解消に向かっている。</p> <p>③ 1, 2年生という早い段階からの計画的な指導が行われている点が評価できる。</p> <p>④ 高校生就職支援事業を受け、企業訪問など積極的な活動をしていることが、生徒の進路実現につながっている。</p> <p>⑤ LHRの時間や総合的な学習の時間など学校での活動うまく利用した進路学習を展開している。</p> <p>⑥ 漢字検定、数学検定、英語検定、語彙・読解力検定等多くの検定試験に挑戦した。</p>	<p>① 「保護者は生徒（子ども）の目を通して学校を見ている」との指摘があった。「すべては子どもたちのために」という視点からの学校運営に努めなければならない。 年度によって進路希望の進学・就職の割合が変化することもあり、常に生徒の現状を把握していかなければならない。</p> <p>② 来年度に向けて、多様な進路希望を実現させるため、校内をさらに組織化して取り組んでいきたい。</p> <p>③ 来年度も、卒業生の関わる進路行事を取り入れていく。</p> <p>④ 就職活動の長期化にとまない、担当職員の負担が増加していることから、校内の役割分担を検討する。 外部機関との連携も検討していきたい。</p> <p>⑤ 進路指導部及び学年の指導の結果、進路決定率が安定している 未定者の中には、社会情勢の変化や経済不況の影響などを理解させ、より高い進路決定率を目指す。</p> <p>⑥ 将来のキャリア形成に向け、漢字検定、英語検定等は継続して挑戦させたい。</p>
<p>特別活動</p>	<p>① 校外学習をはじめとする体験学習を通して、生徒は新たな知見を得るだけでなく、友人等とのコミュニケーションの取り方も学んでいる様子がよく分かった。</p> <p>② 通学路を中心に近隣の清掃活動を行う取組みをしており、地域の評判も良い。</p> <p>③ 部活動の加入率も高く（57.1%）、多くの生徒が放課後、休業日にそれぞれの部活動の活動場所で生き生き活動している姿が清々しい。</p>	<p>① 「保護者は生徒（子ども）の目を通して学校を見ている」との指摘があった。「すべては子どもたちのために」という視点からの学校運営に努めなければならない。 校外学習についての見直しを行い、これまでの体験学習も視野に置きながら、進路希望の多様化に応える自己啓発活動を推進していく内容を検討する。</p> <p>② 清掃にこだわらずに地域に貢献できるものを考えていきたい。</p> <p>③ 活発になった部活動を統轄する組織として顧問間の連絡調整を図るため、部活動指導委員会の組織を整備していきたい。</p>

<p>特教 色育 あ活 る動</p>	<p>① 特別支援教育校内支援委員会で、軽度発達障害のある生徒等の支援について協議し、支援を行っている点が評価できる。</p> <p>② 校外学習や体験学習が充実しているが、今後の取組内容に、日本文化の研究なども含めて、日本人としての誇りや美徳を身に付けさせるなど、日本人としての心を育ててほしい。</p>	<p>① 特別支援が必要な生徒について、2次的な障害を防ぐために、早期発見、状況把握、対応を組織的に展開していきたい。</p> <p>② 道徳の時間なども含め、平成27年度に検討したい。</p>
--------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------